

北京五輪のオモテとウラ

——テレビ報道で提供された中国イメージとその記憶——

渋谷明子



▶ 1 はじめに

様々な点で世界の注目を集めた 2008 年の中国と北京五輪

2008 年は、中国が世界の注目や関心を集め、大きく揺れた 1 年だった。急速な経済成長と、共産党の一党独裁という不透明な政治のなかで広がる貧富の格差、汚職や失業の増大など様々な矛盾を抱えるなかで、8 月に国家的事業であるオリンピックが開催された。2008 年の中国についての記憶は、日本人にとって、北京五輪という大きなイベントの記憶だけでなく、他の様々な事件や出来事とともに記憶に刻まれることになるだろう。たとえば、1 月には、中国製冷凍ギョウザが原因と疑われるような中毒事件が報告され、その後、農薬が混入された場所をめぐり、日本政府と中国政府との見解が対立した。また、3 月には、チベット自治区のラサで大規模な暴動が発生し、その後、北京五輪の聖火リレーが回った世界各地で、中国政府のチベット弾圧に対する抗議行動が起こり、論議を呼んだ。さらに、同年 5 月 12 日には四川大地震が発生し、多くの死傷者が出た。なかでも学校校舎の倒壊で多くの教師や生徒が命を失った。

このような事件や災害が起こり、民族問題などの様々な矛盾を抱えながら開催された北京五輪は、日本では批判的なトーンで語られてきた（福島、2008；櫻井・田久保・劉・金、2008 など）。北京の大気汚染の深刻さ、チベットをはじめとする少数民族への弾圧を懸念する国際世論とともに、開会式への出席を中国政府のチベットへの対応次第だと示唆した国もあり、大規模なテロが発生することへの懸念から、五輪の開催自体をあやぶむ声も多かった。

1964 年の東京五輪、1988 年のソウル五輪に続き、アジアでの 3 度目の五輪開催とのこともあり、3 つのオリンピックはしばしば比較され、論じられてきた。また、中国政府の政治的宣伝の道具として北京五輪が用いられるのではないかとの懸念もあり、1936 年のナチスドイツが率い、政治的宣伝となったベルリン五輪とも比較され、早い時期から北京五輪への関心が日本でも高かったと言えよう。

中国や中国人イメージの変化

これまで、オリンピックやサッカーワールドカップなどの国際的なスポーツイベントの前後で、メディア報道の影響などにより、特定の国のイメージに変化がみられたことが報告されている（上瀬、2004；向田・坂元・村田・高木、2001 など）。そして、北京五輪の前後においても、中国や中国人などの外国・外国人イメージの変化を検討した調査がすでいくつか報告されている（黄・小林、2009；橋元・小笠原・江・河井、2009；上瀬・萩原・李、2010；山下・佐久間・村田・藤島・大江・李・金、2009 など）。たとえば、山下ら（2009）

が行ったパネル研究では、北京五輪のテレビ報道への接触量では変化がみられなかったものの、新聞報道への接触量が多い大学生は、五輪前と比べて、中国人をあたたかいと思ひ、身体能力が低いと思ひ傾向がみられている。また、橋元ら（2009）が行った調査でも、日常的にテレビ番組をよく見る大学生は、中国人を閉鎖的で、感情的だと思ひ傾向が高いことを示唆しているが、北京五輪のテレビ中継視聴経験との関連性はみられていない。むしろ、インターネットでニュースサイト、掲示板などを利用した大学生のほうが、中国人を「親切」「信頼できる」「平和的」だと思わなくなり、「愛国心が強い」「自己中心」的だと思ひ傾向が強いようだ。一方で、黄・小林（2009）らの調査では、北京五輪のテレビ報道などに多く接触した人ほど、中国人を「フェアだ」、「男女平等だ」、「理性的だ」、「環境意識が高い」、「おしゃれだ」と思わなくなる傾向が事後調査ではみられているが、新聞報道など他メディアへの接触との間でも、同じような関連性がみられており、メディアの接触の影響かどうかは十分に解明できていない。

そして、本プロジェクトで上瀬ら（2010）が行ったパネル研究でも、北京五輪の直後では、中国人に対して「気性が激しい」「愛国心が強い」などのイメージを抱く大学生が多かった。また、スポーツへの関心が高く、北京五輪に期待し、試合中継を視聴した大学生（北京五輪へのコミットメントが高い大学生）ほど、中国の肯定的なイメージが低下した傾向もみられているが、中国や中国人への認知は、親和性、先進性などの視点も加わり、より複雑に認知されたことも示唆されている。

したがって、北京五輪の前後で、日本人の中国や中国人のイメージが変化した可能性はあるが、どのようなメディアへの接触が具体的に多かったのか、各メディアで、どのような内容の報道や中継がなされたのか、そして、どのような映像や報道により中国や中国人に対するどのようなイメージが形成されたのか、そのプロセスを説明できるような研究が求められていると言えよう。

北京五輪時に利用したメディアとその報道内容、そして、五輪はどう見られたか

北京五輪時のメディア接触については、いずれの調査でも、テレビ（ニュース、試合中継など）へ接触頻度が最も高い。その他のメディアの接触頻度については、調査によって質問内容や結果が異なるものの、インターネット（ニュースサイト、掲示板など）、または、新聞記事などへの接触頻度が多い傾向がみられている（黄・小林、2009；橋元ほか、2009；上瀬ほか、2010）。ワンセグ放送を利用した人もいたが、全体としてはそれほど多くはなく、テレビで視聴するまでの一時的な“つなぎ”のメディアとして利用されたとの指摘もある（荒川、2008など）。

日本のマスメディアによる北京五輪報道についても、いくつか分析がすでに報告されている（黄・小林、2009；山田、2008；山内、2009など）。たとえば山田（2008）は、北京五輪をはじめとする2008年の中国における重大ニュースの報道について、中国と日本の報道を比較しながら論じており、日本経済新聞では、北京五輪を機に、中国の民族問題、人権、民主化、経済・環境問題など幅広い視点から、中国を再評価していた点を指摘している。また、黄・小林（2009）は、五輪開催期間とその前後のテレビニュースの報道を分析し、中国を発生地としたニュースが多く（38%）、その中心は北京五輪などスポーツであったものの、どの番組でも、視聴者の約6割が「開催地（中国）の事情が多く報道された」との印象を抱いていたことを報告している。そして、開会式が行われた8月8日の報道について分析を行っており、開会式の様子が、中国の「歴史」を象徴するアトラクションとして賞賛され、オリンピックを喜び、期待する市民や政治家や、厳戒態勢のなかで警備する軍人や警察官などのイメージが提示されたことを報告している。

なお、試合中継については、山内（2009）が、日本人選手が金メダルを獲得した前後の

実況中継について分析を行っている。1936年のベルリンオリンピックでは、「がんばれ!」「勝った!」という言葉が連呼され、日本という「国家」の力が世界に証明された興奮と喜びが伝えられたのに対し、2008年の北京五輪の実況中継では、「家族」の名前や話題に触れた中継もみられた点を指摘している（柔道やレスリングなど）。そして、五輪中継を歴史的に振り返り、選手「個人」の心理や気持ちが素直に伝えられるようになり、五輪中継の視点が、国家対国家の競争から、個人や家族を中心とした描写へと変遷してきた経緯を論じている。

北京五輪で、中国は51枚と最も多くの金メダルを獲得したが、どのような中国選手の活躍が日本では報道されたのか。日本の報道陣は、どのような競技で、中国選手やその家族に注目し、インタビューのためにマイクを向けたのだろうか。上瀬（2007）はメディア報道で、特定の外国・外国人選手をライバル・フレームに位置づける傾向があることを指摘したが、北京五輪では、国家対国家の対決姿勢が示され、中国人選手やチームは日本選手のライバルとして描かれたのだろうか。

また、北京五輪をどのように見たかという点では、黄・小林（2009）が、20代から50代の人たちを対象にフォーカス・グループ・インタビューを行っている。若い世代では、ポジティブともネガティブとも受け取ることができる中国の「すごさ」を感じた人が多く、40-50代では、「中国という国家」が総力をあげて開催した五輪とのイメージを強く抱いていた。また黄・小林（2009）は、中国渡航経験者は、渡航無経験者よりも、中国人に対するイメージが否定的であり、中国人の知人や友人がいる人は、いない人よりも、中国人は国際的だが、金銭に敏感だと思いう傾向があることも指摘している。そして、このように中国人と関わった経験がある人たちは、中国の歴史的の流れのなかで北京五輪をとらえ、「(中国や中国人については) 複眼的な見方をしてしなくてはいけない」「(中国人は) 一筋縄では行かなくて難しい。でも、深みがあり、おおらかなところもあり、生活力は旺盛で団結力もある」などと発言していた。そして中国人と関わった直接体験がある人は、個人的経験に基づいたイメージは北京五輪の報道であまり大きく変化していない。つまり、メディア報道の影響を受けやすい人たちは、中国や中国人についてあまり知らない若い世代の人たちが中心である可能性が高い。そして、北京五輪の記憶が若い世代の人たちの中国の歴史的記憶の1ページとなっていくのであれば、どのように北京五輪が報道され、若い世代にどのように見られたのかをじっくり検証していく意義はあるだろう。

本稿では、これまで行われたステレオタイプや外国人イメージの先行研究などで得られた知見を元に、北京五輪開催前後のテレビ報道の分析を行うと同時に、上瀬ら（2010）が大学生を対象に行った調査から、自由記述部分の分析を行った。具体的には、(1)中国に関して、どのような報道がテレビではなされたのか、(2)どのような競技のどのような中国人選手が日本のテレビでは紹介されたのか、(3)テレビ報道では、どのような中国人の発言が多く引用されたのか、そして、(4)日本人大学生は、中国に対して、具体的にどのような印象を北京五輪で抱いたのだろうか、などの問いに答える形で分析を行ったので、報告する。

▶ 2 分析方法

(1) テレビ報道についての分析方法

まず本稿では、表1に示すニュース番組の録画を行い、分析を行った。2008年7月1日から8月31日に放送された「ニュース23」(TBS系)、および「報道ステーション」(テレビ朝日系)、そして、週末に放送されたスポーツニュース番組「Jスポーツ(スーパー)」(TBS系)、「ANNニュース&スポーツ」「Get Sports」(テレビ朝日系)を分析対象とした。なお、NHKのニュース番組についても、2008年7、8月に放送された「ニュースウォッチ9」



●表1 分析対象としたニュース番組

	TBS系	テレビ朝日系
月	NEWS23	報道ステーション
火	NEWS23	報道ステーション
水	NEWS23	報道ステーション
木	NEWS23	報道ステーション
金	NEWS23	報道ステーション
土	Jスポーツスーパー (サッカー PLUS)	ANN ニュース&スポーツ
日	Jスポーツ	Get Sports

「土曜スポーツタイム」「サンデースポーツ」の番組を録画した。だが、北京五輪の開催期間中の8月8日(金)～8月24日(日)までは、開会式や北京五輪の競技のライブ中継に対応するために、「ニュースウォッチ9」などの放送はなかったため、他の放送局との比較検討を行うことが難しく、分析対象から除外した。

(A) ニュース項目の分析

まず、中国に関連したニュースが7、8月の2か月間でどの程度多くみられたか、その特徴を明らかにするために、ニュースとして報道された項目数を分析単位とし、以下のような分析カテゴリーを設け、ニュース項目について、量的な分析を行うと同時に、ニュースのなかで紹介された中国チーム、中国人選手については、具体的な競技名や選手名なども記述し、質的な分析を試みた。

北京五輪関連報道：①北京五輪報道（北京五輪の競技内容、開会式、聖火リレーなどに直接言及した報道）、②その他の中国関連報道（北京五輪の競技やイベントとは直接的な関連性が薄い中国関連ニュースで、洞爺湖サミット、新疆ウイグル自治区の爆破事件、チベット自治区取材など）。

中国（人）チーム・選手：北京五輪に直接関連したニュース項目（北京五輪関連報道の①に該当）のなかで、中国チーム、中国人選手、中国人コーチが、(a)どのような競技で、(b)どのような選手が、(c)どの程度の割合で言及されたかを明らかにするために、①中国チーム・中国人選手・中国人コーチが言及されたニュース、②中国チーム・中国人選手・中国人コーチが言及されなかったニュースとに分類した。

発言者数：ニュース項目のなかで、有聲の情報源（ニュース・ソース）として発言が言及された人数を記述した（「中国がんばれ！」など、複数の人が同じ発言をしている場合は1つとして数えた）。

中国人発言者数：ニュース項目のなかで、有聲の情報源として発言が言及された中国人と思われる人の数を記述した。

(B) 中国人発言者の分析

どのような中国人の発言がテレビ報道のなかで紹介されたのか、報道の全体像を明らかにするために、分析単位を有聲の情報源となった中国人発言者に限定し、以下のようなカテゴリーに分類し、量的な分析を試みると同時に、発言内容や名前もすべて記録しながら、具体的な発言内容についても質的な分析を行った。

発言者の社会的地位：①公務員（政府関係者、警察、軍関係者など）、②北京五輪関係者（選手、コーチ、五輪スタッフなど）、③専門家（学識経験者、宗教関係者など）、④報道関係者（ただし、番組のなかで他の報道機関のニュースが引用された場合に限る、分析対象となったニュース番組のキャスター、同系列の記者、レポートを分担した芸能人、スポーツ選手などは分析から除外）、⑤従業員・店員（特定の会社の社長、従業員、飲食店の店員

として言及された場合)、⑥市民団体関係者(抗議行動や集会などを行っている様子が個人や集団として紹介された場合など)、⑦テロリスト(爆破事件などを起こしたと主張し、個人や団体が紹介された場合など)、⑧一般市民(職業や社会的地位などが特に言及されずに個人が紹介された場合など、失業中の出稼ぎ労働者も含めた)、⑨不明(発言は紹介されているが、誰の発言かわからない場合など)

発言者の性:①男、②女、③複数で男女混合(抗議行動のシュプレヒコールなど)、④不明

発言した場所:①北京、②その他の中国地域(a.四川省、b.新疆ウイグル自治区、c.河北省、d.内モンゴル自治区、e.チベット自治区、f.山東省、g.雲南省、h.河南省、i.貴州省、j.その他)、③日本、④その他の国(中国、日本以外)、⑤不明

(2)大学生を対象とした Web 調査の自由記述の分析方法

本プロジェクトでは、首都圏の大学生を対象に北京五輪の直後に(2008年8月26日～9月10日)Web調査を実施したが(調査方法や質問項目の詳細については、上瀬ほか、2010参照)、その最後で、自由に記述してもらう欄を設けた。そのなかで、中国や中国人に関する記述を抽出し、分析を行った。①ポジティブな内容のみを含んだ記述、②ネガティブな内容のみを含んだ記述、③ポジティブな内容とネガティブな内容を含んだ記述、④中立的な内容のみを含んだ記述とに分類し、その内容について、質的な分析を試みた。

▶ 3 分析結果

(1)テレビ報道についての分析

中国に関連したニュース項目数は、2局の合計で653件あり、TBS系(365件、56%)のほうが、テレビ朝日系(288件、44%)よりもニュース項目数としては多い傾向がみられた。一方、中国に関連したニュースの放送時間で比較してみると、合計30時間54分33秒のうち、テレビ朝日系(17時間30分51秒、57%)のほうが、TBS系(13時間23分42秒、43%)よりもやや長い傾向がみられた。したがって、2つの放送局のニュース報道を比較すると、TBS系のほうが、テレビ朝日系よりも、短い中国関連ニュースを数多く報道したことになる。

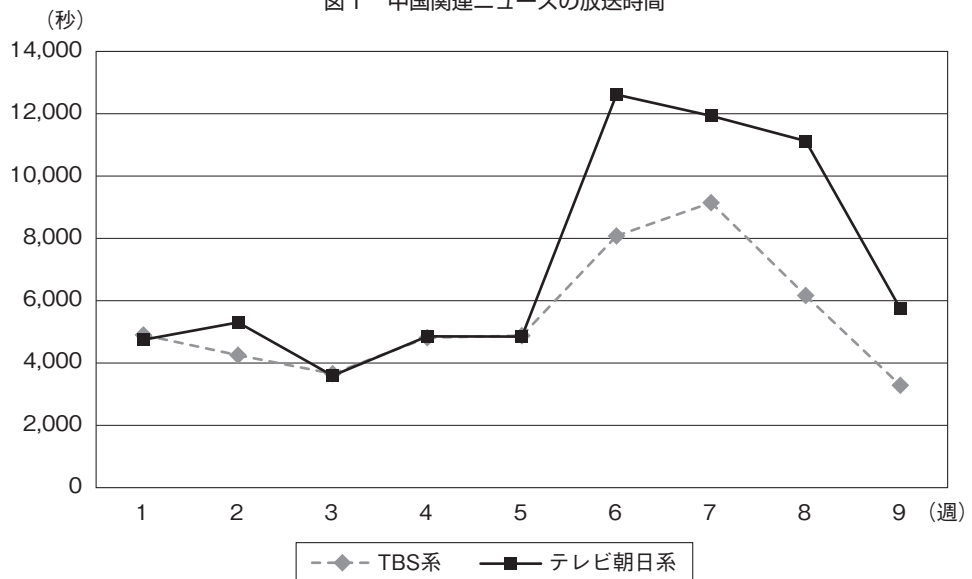
2つの放送局のニュース放映時間の推移を、週ごとにまとめたのが図1である。第6週(8月5日～11日)から放送時間が飛躍的に増加しており、北京五輪の開会式(8月8日)の数日前から、放映時間が一段と長時間に及ぶようになった(特にテレビ朝日系)。そして、この傾向は北京五輪の閉会式(8月24日)が行われた第8週(8月19日～25日)まで続き、北京五輪開催期間を中心に、中国関連のニュースの放映時間が長い傾向が読み取れる。

(A)ニュース項目の分析:あまり報道されなかった中国チーム、中国選手の活躍

これらの中国関連ニュースのなかで、北京五輪に直接的な関連がみられたニュース項目は546件(84%)あり、北京五輪と直接的な関連性が乏しかったニュース項目は107件(16%)と少なかった。放送局別でも、TBS系(311件、85%)、テレビ朝日系(235件、82%)ともに、北京五輪と直接的な関連性がみられた報道内容が8割を超えている。

だが、このような北京五輪のニュースのなかで、中国チーム、中国人選手やコーチが言及されたニュースは、テレビ朝日系(33件、14%)のほうが、TBS系(23件、7%)よりもやや多い傾向がみられたものの、全体としては56件にすぎず、北京五輪関連ニュースの10%にとどまっていた。そして表2に中国チームや選手などが紹介される頻度が多かった競技とおもな報道内容を示したが、体操(8回)、シンクロナイズドスイミング(8回)で最も多く登場し、パドミントン(7回)、バレーボール(6回)、陸上(5回)、卓球(5回)などでやや多い傾向がみられた。

図1 中国関連ニュースの放送時間



まず、体操では、日本が男子団体が銀メダル、個人総合でも内村航平が銀メダルを獲得し、演技の様子、結果、選手や家族の声などが報道された（8月12日、13日など）。そこで金メダルを獲得したのは男子団体では中国チームであり、個人総合、ゆか、あん馬などでも中国選手が金メダルを獲得したため、楊威（個人総合）、鄒凱（ゆか）、肖欽（あん馬）などの選手が紹介されている。また女子団体でも5位と40年ぶりの好成績をおさめ、やはり優勝は中国チームであったが、女子体操の報道では、日本チーム躍進の原動力となった陶暁敏コーチにインタビューを行い、発言を紹介している。その他に、北京五輪の聖火リレーの最終ランナーを務めた元体操金メダリストの李寧（現在はスポーツメーカーとして世界第4位の北京李寧体育用品有限公司社長）に対してもインタビューが行われ紹介された（7月25日テレビ朝日系）。

また、シンクロナイズドスイミングでは、日本と中国がデュエットやチームで銅メダルを競っていたこと、また、日本人の井村コーチが中国チームの指導を行っていたことなどから、ライバル・フレームで、中国選手や中国チームが語られた。また、デュエットで銅メダルを競った末に敗れた蔣婷婷・蔣文文双子ペアが「今日は最大の努力をしました。悔いはありません」と語る様子もインタビューとして伝えられた（8月20日テレビ朝日系）。さらに、バドミントンでも、女子バドミントンダブルス世界ランキング3位で、小椋久美子・潮田玲子ペアを破った杜婧・于洋選手などの名前が紹介されている。バレーボールでも、日本チームの対戦相手として、中国チームとの試合の様子などが放送されている。

しかし、このような中国チーム、中国人選手やコーチが紹介されたニュースを詳細に見ていくと、日本チームや日本人選手にのみ焦点が当てられる場合が多く、中国の選手名や国名のみが言及された場合が多い。体操でも、バドミントンでも、日本人選手の発言は何度も紹介されるが、男子体操個人総合で金メダルを獲得した楊威選手、バドミントンの杜婧・于洋ペアや楊維・張潔雯ペアなどの発言は一度も引用されていない。体操で中国人の発言として紹介されたのは、李寧社長（元体操選手）と、陶暁敏コーチ（日本女子体操コーチ）のみである。その他に、日本人選手や日本チームの対戦相手としてインタビューされ、発言が引用された選手は、野口選手のライバルだとされた周春秀選手（女子マラソン）のみである。

●表2 中国選手、チーム、コーチなどが引用されたおもな競技と内容

月日	放送局	競技	報道数	おもな報道内容
725	テレ朝	体操	8	中国で最も成功した選手李寧 (Li Ning) 体操王子から企業家へ/1984年ロサンゼルス五輪で3つの金メダルを獲得。引退後、起業し、スポーツ用品メーカー世界4位に躍進
812	TBS/テレ朝			ニッポン銀 2大会連続メダル/男子団体決勝鉄棒/体操男子団体:金・中国, 銀・日本, 銅・アメリカ
813	テレ朝			体操女子団体 決勝進出は24年ぶり/中国, アメリカ, ルーマニア, ロシアに次いで日本は5位で, 40年ぶりの好成績/日本躍進の原動力となった陶暁敏コーチの存在
814	テレ朝			19歳の新星・内村航平/鉄棒で逆転, 銀メダル獲得/金・楊威 (中国)
817	TBS/テレ朝			体操男子種目別ゆか決勝で内村は5位。金・鄒凱 (中国)/体操男子種目別あん馬決勝で富田も5位。金・肖欽 (中国)
727	TBS	シンクロ ナイズド スイミング	8	日本のシンクロを指導した井村雅代 波瀾万丈/中国代表ヘッドコーチに就任。なぜ中国コーチに?井村の壮絶決意
820	TBS/テレ朝			デュエット決勝の模様/中国:蔣婷婷・蔣文文双子ペア, 日本:原田早穂・鈴木絵美子ペアなど/同じく日本人がコーチを務めるスペイン (藤木麻祐子コーチ) /1位ロシア, 2位スペイン, 3位日本, 4位中国, ライバル中国を抑え, 日本が銅メダル死守した
823	TBS/テレ朝			メダル争いはライバル中国と! チームフリールーティン決勝/中国チームの変化にとんだ競技映像, 元日本代表コーチ・井村雅代中国コーチと抱き合って喜ぶ中国選手/金・ロシア, 銀・スペイン, 銅・中国, 5位タイ・日本
808	テレ朝	バドミントン	7	女子ダブルス潮田玲子・小椋久美子/月曜日2回戦の相手は世界ランキング3位の杜婧・于洋選手
811	TBS/テレ朝			女子ダブルス準々決勝 小椋久美子・潮田玲子 0-2 杜婧・于洋 (中国)/末綱聡子・前田美順 2-1 楊維・張潔雯 (中国) 第1シードを破って準決勝進出を決める
815	TBS			女子3位決定戦 末綱聡子選手・前田美順 対 張亜雯・魏軼力 (中国)/2-0で日本敗退4位入賞
712	TBS	バレーボール	6	(北京五輪まであと27日) 女子ワールドグランプリファイナル 日本対中国 アテネ金メダルの中国に1-3で敗れる
814	TBS			男子1次リーグ日本 (3敗) 2-3中国 (2勝1敗)
829	テレ朝			北京五輪の舞台裏 国境を超えたコーチたち/女子バレーアメリカ代表・朗平監督 (1980年代中国エース) アメリカ24年ぶりの銀メダル
730	テレ朝	陸上	5	最も警戒すべき選手は中国の朱曉琳, 周春秀選手/2007年世界陸上で朱選手4位, 周選手銀メダル/中国女子マラソン代表顧問は日本人竹内伸也さん/中国選手の強さは日本人にはないハングリー精神/中国はチーム力で給水も協力
817	テレ朝			波乱の女子マラソン/...銅:周春秀 (中国)
818	テレ朝			男子110mハードル決勝「中国の英雄」棄権の衝撃/劉翔選手が決勝のレースで怪我のため棄権。右アキレス腱の古傷が突如悪化
820	テレ朝			男子110mハードルで棄権した劉翔選手に非難。当局が沈静化に/ネット上の批判の書き込みを紹介
826	TBS			陸上・男子110m障害 中国劉翔選手 棄権
814	テレ朝	卓球	5	男子団体1次リーグD組・日本 (世界ランク5位) 3-0香港 (世界ランク4位), 準決勝進出
816	TBS			女子団体の日本 vs 香港戦で, 3-2で勝利/3位決定戦へ
816	テレ朝			卓球女子団体敗者復活2回戦で, 日本は香港と対戦/最初のシングルスで福岡春菜が敗れ, 2番手の福原愛は林菱に勝利/試合は2-2と最後までつれ, 3位決定戦進出
821	TBS			女子シングルス4回戦 福原愛選手 1-4 張怡寧選手/福原選手ベスト16で敗退
829	テレ朝			北京五輪の舞台裏 国境を超えたコーチたち/卓球の各国選手のほとんどが元中国の選手



また、日本チームや日本人選手とあまり関係がない形で名前が言及された中国選手は、アテネ五輪の男子110mハードルで金メダルを獲得し、北京五輪でもメダルが期待されながら棄権した劉翔選手と孫海平コーチ、バスケットボールで活躍が期待された姚明（ヤオ・ミン）選手（インタビューはなし）などに限られていた。

その他には、バレーボールで中国チームと対戦し、卓球は香港チームとの対戦があったため、紹介される機会が他競技より多くなっていた。そして、女子バレーボールのアメリカ代表の郎平監督、卓球の各国選手のほとんどが元中国の選手であることも報じられた。シンクロナイズドスイミングの井村雅代コーチ、女子体操の陶曉敏コーチだけでなく、「国家」という枠にとらわれずに世界的競争力の向上に向けて、国境を越える中国人指導者の存在も紹介された。

なお、中国が関連したニュース項目653件のなかで、延べ1,597人（ニュース項目あたり平均2.4人、以下同）の発言が音声で紹介され、テレビ朝日系（848人、平均2.9人）のほうが、TBS系（749人、平均2.1人）よりも、紹介された発言者はやや多い傾向がみられた。そのうち、中国人だと思われた人の発言数は、延べ343人（発言者全体の21%、以下同）であり、テレビ朝日系（238人、28%）のほうが、TBS系（105人、14%）よりも、より多くの中国人の声を報道のなかで紹介する傾向がみられた。

(B)中国人発言者の分析：テレビ報道のなかで紹介された中国ウラ事情

(1)社会的地位と発言場所

中国が関連したニュース報道のなかで、発言者として登場した中国人の社会的地位、発言した場所、発言内容などを具体的に紹介しながら、テレビ報道のなかでは、どのような人たちが多く登場し、どのような報道がテレビでなされたのかを探った。

表3に、社会的地位別にみた中国人発言者数の割合を示したが、最も多かったのは、一般市民の48.4%（166人）であり、次に会社員・労働者16.6%（57人）、公務員10.5%（36人）、北京五輪関係者7.6%（26人）などが多い傾向がみられた。放送局別にみても、大きな違いはみられなかったが、テレビ朝日系では専門家（7.6%、18人）や報道関係者（5.9%、14人）がやや多く、TBS系では、一般市民（51.4%、54人）の割合がやや高い傾向がみられている。

同様に、表4に発言した場所の分布を示したが、北京五輪の多くの競技が行われた北京での発言が58.9%（202人）と最も多く、6割近くに及んでいた。次に多かったのは、中国のその他の地域の32.4%（111人）であり、約3割を占めていた。なかでも、テレビ朝日系では、TBS系よりも中国各地を取材しており、北京以外の中国人発言者が35.7%（85人）と多岐に渡っている様子が見える。そのなかで比較的多い地域は、四川省の18人、新疆ウイグル自治区16人、河北省14人などであった。

●表3 社会的地位別にみた中国人発言者数の割合

	TBS系		テレビ朝日系		合計	
一般市民	51.4%	(54)	47.1%	(112)	48.4%	(166)
会社員・労働者	17.1%	(18)	16.4%	(39)	16.6%	(57)
公務員	9.5%	(10)	10.9%	(26)	10.5%	(36)
北京五輪関係者	8.6%	(9)	7.1%	(17)	7.6%	(26)
専門家	5.7%	(6)	7.6%	(18)	7.0%	(24)
報道関係者	3.8%	(4)	5.9%	(14)	5.2%	(18)
市民団体関係者	2.9%	(3)	2.9%	(7)	2.9%	(10)
テロリスト	1.0%	(1)	0.8%	(2)	0.9%	(3)
不明	0.0%	(0)	1.3%	(3)	0.9%	(3)
合計	100.0%	(105)	100.0%	(238)	100.0%	(343)

●表4 発言場所別にみた中国人発言者数の割合

	TBS系		テレビ朝日系		合計	
	割合	人数	割合	人数	割合	人数
北京	59.0%	(62)	58.8%	(140)	58.9%	(202)
その他の中国	24.8%	(26)	35.7%	(85)	32.4%	(111)
四川省	4.8%	(5)	5.5%	(13)	5.2%	(18)
新疆ウイグル自治区	1.9%	(2)	5.9%	(14)	4.7%	(16)
河北省	5.7%	(6)	3.4%	(8)	4.1%	(14)
内モンゴル自治区	0.0%	(0)	3.4%	(8)	2.3%	(8)
チベット自治区	0.0%	(0)	2.9%	(7)	2.0%	(7)
山東省	2.9%	(3)	1.3%	(3)	1.7%	(6)
雲南省	2.9%	(3)	1.3%	(3)	1.7%	(6)
河南省	0.0%	(0)	2.1%	(5)	1.5%	(5)
貴州省	0.0%	(0)	2.1%	(5)	1.5%	(5)
その他	6.7%	(7)	8.0%	(19)	7.6%	(26)
日本	9.5%	(10)	3.4%	(8)	5.2%	(18)
その他の国	6.7%	(7)	2.1%	(5)	3.5%	(12)
合計	100.0%	(105)	100.0%	(238)	100.0%	(343)



また、性別では、男性の発言者が全体の67%（229人）を占め、女性は32%（108人）とほぼ半数にすぎなかった。TBS系のほうが（男71%、74人；女29%、30人）、テレビ朝日系よりも（男65%、155人；女33%、78人）、男性の割合がやや高い傾向もみられた。

(2)北京五輪を応援する市民と、困惑する地方出身者

中国人発言者で最も多かったのが一般市民であり、そのなかでも北京での発言が多く、北京の一般市民の発言が31%（106人）と発言者全体の3割を占めていた。そのなかで、最も多かった発言は、表5に示すように、北京五輪に期待し、熱狂的に応援し、協力する北京市民の声である。「中国がんばれ、五輪がんばれ」と応援する姿がたびたび引用され（テレビ朝日系8月6日、8月11日など）、開会式のリハーサルを見て「素晴らしかった」などの声が伝えられる。そして、中国では「8」はラッキーナンバーで、歴史的イベントである北京五輪の開会式と重なることから、8月8日に子どもを出産したい妊婦、8月8日に結婚した人の声などが紹介される。

また、手荷物検査を面倒とも思わず、「皆の安全のためだから」と納得する市民（7月31日テレビ朝日系）、北京市内の地下鉄の一部の駅が通過となっても、「不便ではありませんよ。オリンピックに協力するのは当然です」と、五輪に協力的な声も聞かれる（8月6日テレビ朝日系など）。北京市民に人気な競技として、飛び込み、シンクロナイズドスイミングが紹介されているが（7月25日テレビ朝日系など）、なかでも、バスケットボールの姚明選手、陸上110mハードルの劉翔選手などへの期待が高い（8月4日TBS系、8月1日テレビ朝日系など）。

一方で、表6に示すように、中国政府の交通規制や強制的な立ち退きに困惑する市民の声も紹介された。たとえば、北京市内の大気汚染対策として、排気ガスを減らすために、奇数／偶数ナンバーのいずれかの車しか市内に入れないという交通規制がなされたが、Uターンさせられ困惑した運転手、ルールを無視して進もうとする運転手などの声が紹介された（7月21日テレビ朝日）。また、北京市内の小武基地区などでは、「民工」と呼ばれる出稼ぎ労働者が1990年代から住み始め、1万人以上が生活していたが、北京市の治安対策のため、居住証がない「民工」は帰郷を余儀なくされた。「四合院」と呼ばれる防空壕のような伝統的な家屋も「民工」の宿泊施設として利用されていたが、テロリストに使用されることを恐れ、封鎖された。その他にも、北京五輪の再開発のために立ち退きを余

●表5 北京五輪を応援し、協力的な北京市民のおもな発言内容

月日	放送局	発言者についての情報	性別	発言内容
725	テレ朝	チケットを買えた人	男	陸上のチケットを買えました。皆さん、北京に来て、オリンピックの熱気を味わってね。
731	テレ朝	手荷物検査について質問された市民	男	(Q(手荷物検査について)面倒じゃないですか?) そんなことは思わないよ。皆の安全のためだから。
731	テレ朝	リハーサルの観客	女	(Qリハーサルはどうだった?) 素晴らしかった。
804	TBS	天安門広場にいた人	男	山西省から電車で8時間かけて来ました。(注目する競技は)(バスケットボールの)姚明, (110mハードルの)劉翔。
804	TBS	天安門広場にいた人	男	バレーボールが見たいです。
804	TBS	天安門広場にいた子ども	男	(見たい競技は)陸上, 劉翔。
806	テレ朝	見物客	女	五輪が北京にやってきたわ。市民全員が興奮と情熱にあふれている。
806	テレ朝	動員された見物客(複数)	女	中国がんばれ, 五輪がんばれ
806	テレ朝	市民	男	(ここから聖火は見えませんが?) 大丈夫。雰囲気を感じられれば十分。
806	テレ朝	市民	女	(五輪周辺の地下鉄の駅が一時通過となったことについて) 不便ではありませんよ。オリンピックに協力するのは当然です。
806	テレ朝	聖火ランナーを待つ市民	男	聖火はどこから来るかわからないが、待っています。
806	テレ朝	聖火ランナーを見に来た人(複数)	混合	中国がんばれ! 中国がんばれ!
806	テレ朝	聖火ランナーを見に来た人	女	100年に1度のことです。もうすぐ60歳なのでどうしても見たいの。
806	テレ朝	聖火ランナーを見に来た人(男児複数)	男	中国がんばれ, 北京がんばれ。
807	TBS	市民	女	オリンピックは100年来の望み, 中国の夢です。必ず成功します。
807	テレ朝	8・8出産予定の妊婦	女	(8月8日に生みたいですか?) もちろんよ! 誰だって産みたいですよ!
807	テレ朝	8・8出産予定の妊婦	女	もともと8月8日は特別な日, その上オリンピックですからね。
808	TBS	8月8日に結婚した女性	女	今年の8月8日結婚しようと思ったのもオリンピックの開会式に会わせたいんです。それに千年に一度のx008年8月8日ですから。
811	テレ朝	バーで観戦する人(複数)	女	(姚明選手の登場に)がんばれ! 中国がんばれ!
825	テレ朝	市民	男	世界各地に行ってみんなに自分は中国人だと訴えたい。
825	テレ朝	市民	女	北京は以前よりキレイになり, スポーツを愛する人が増えました。今回の五輪は本当に素晴らしかったです。



儀なくされた住民の声なども紹介されている。

さらに、より深刻な北京での発言として、地方から陳情に来た人々の声も紹介された。地方政府の腐敗や殺人事件への対応への不満を、「信訪局」と呼ばれる陳情の窓口で訴えたいが、地方に送り返され拘束されることを恐れて、必死に外国メディアに訴える人々の声も紹介されている(8月22日テレビ朝日系)。北京で、一般市民より発せられた声ではあるが、不満や怒りを表出した人たちの多くが地方出身者からの声である点も印象的だ。

(3)地震被災地からの発言

北京以外にも、全体の32.4%の発言(111件)が北京以外の地域からのレポートとして紹介された。そのなかで最も発言数が多かった地域は、5月に大地震が発生し、多くの死傷者を出した四川省からの発言である。都江堰で地震に遭遇し、重傷を負った父親と娘、中学校の校舎が倒壊し、自力で脱出したものの、多くの同級生が命を失い、心の傷を癒すことができない少女と母親の声が伝えられる(8月5日TBS系)。だが、倒壊した建物の復興は進まず、地震直後に見た風景とあまり変わらない状況が映し出される。また、山岳

●表6 北京で発せられた不満や怒りなどを表出した市民のおもな発言内容

月日	放送局	発言者についての情報	性別	発言内容
721	テレ朝	Uターンさせられた奇数ナンバー運転手	男	規制は北京の中心部だけだと思っていた。
721	テレ朝	Uターンさせられた奇数ナンバー運転手	男	姉の孫が生まれたのでお祝いにいきたいのに・・・。
721	テレ朝	(本来北京市内には入れない) 奇数ナンバー車の運転手	女	(Q 奇数・偶数の交通規制を知ってますか?) 知ってます。天津に行きたいから北京を出たいのよ。(Q それでもダメではないですか?) ちょっと撮らないでよ!
721	テレ朝	(交通規制のなか) タクシーを待つ人	女	(携帯電話片手に) 大勢の人がタクシーを待っていてつかまらないの。
725	テレ朝	五輪チケットを買いに来た人	男	この勢いを見たら怖くてもう買うのをやめた。この調子じゃ買えない。絶対買えない。
804	テレ朝	ウイグル人居住区に住む人	男	暫住証(臨時居住証)を持っていない人は皆逃げました。
804	テレ朝	市民	男	(Q 新疆ウイグル自治区には一部の不満分子がいると聞いていますが?) 聞いたことないよ、そんなの。
804	テレ朝	河北省に帰る民工	男	そりゃ五輪は見たいさ。でも俺たちは北京で見させてもらえないんだ。
804	テレ朝	小武基地区に住む民工	男	ほらシャッターが閉まっているでしょ。失業したから、ほとんどの人が故郷に帰っていったよ。
804	テレ朝	河南省に帰る民工	男	五輪中は工事現場で働いちゃだめなんだ。俺たちは邪魔になるんだよ。
804	テレ朝	立ち退きにあった住民	女	オリンピックを利用して私たちの家を奪わないで!
804	テレ朝	立ち退きにあった住民	女	オリンピックに反対はしない。家を奪わないでほしいだけよ。
807	TBS	小学生	女	前にいたところから立ち退きでここに住むようになって、やっとな友達できたから引っ越ししたくない。
807	TBS	住民	男	この辺はスラムだよ。オリンピックで(国が)お金をいっぱい出して「建て直し」とか「緑化」とかするけど、納得できないところもある。
822	テレ朝	陳情で北京に来た人	女	腐敗を暴露しようとする下級政府が全く相手にしてくれない。仕方なく中央政府に直接訴えようとしている。・・・陳情者がいっぱい殴られて死んだのよ。死んでも家族にも知らせないの。・・・(陳情を担当する) 信訪局の受付の人間が陳情者の名前を一人売れば500元(約8,000円)が入るのよ。
822	テレ朝	陳情で北京に来た人	女	主人が殺されてとてもかわいそう。夫を殺した相手を訴えに来た。犯人が金で全部解決して仕方ないので北京に来たのよ。オリンピックの間だから記者にもいっぱい会えると思って。(すぐそばには陳情の窓口があるのだが・・・) 怖くて行けないよ。(Q 信訪局には行きましたか) 怖くて行けないよ。行くと捕まって送り返される。ここで待つしかないよ。あなた方助けてくれますか?
822	テレ朝	陳情で北京に来た人	男	送り返されると拘束され牢獄に送られる。父親が陳情しようとしたら拉致され殺された。母親もいまだに拘束されている。

Figure
& Table

地帯では、橋や道路すら開通しておらず、がけ崩れの危険性が高い地域を、布団などの大きな荷物を背負って、徒歩で買い出しに向かう人たちの姿も紹介される(8月6日テレビ朝日系)。

被災地の人たちの心情を鑑みてか、聖火は四川省の東の綿陽市までしか来なかった。「聖火をお祝いする気になりますか」との記者の質問に、「そんな気分になれるか。家にテレビはあるけど見る気もなれないよ」と語るのは大地震で娘を失った父親だった。また、「私たちは自分たちの生活で精一杯だよ」との声も聞かれる。さらに山岳部では「電気がないから、テレビでオリンピックを見るなんて無理だよ」「北京に行くこともできないし、テレビで見ることもできない」と。

それでは、北京でのお祭り騒ぎを冷ややかに見ているのかと思えば、必ずしもそうではない。四川省北川の地震被災者の女性からは「聖火がここまで来てくれれば良かったけど残念ですね」との声も聞かれる。四川省映秀の仮設住宅の住民からも、「お金を払ってア

●表7 四川省で聞かれたおもな発言内容

月日	放送局	氏名	発言者についての情報	地域	性別	発言内容
805	TBS	趙玉蓉さん (33)	地震被災者	成都	女	(病院に向かう途中) 父が元気がどうか今すぐにもでも会いたいです。けががちゃんと治ったか、精神状態が安定しているか、心配です・・・(病院で父親に) 元気そうだね・・・見舞いに来るのは当たり前ですよ・・・(父親に) こうやったら擦られた感覚がある？
805	TBS	永泉さん (62)	趙玉蓉さんの父親	成都	男	(病院に来た娘に) 来てくれたんでね。ありがとう・・・感覚はないね。すねから下は感覚がない。
805	TBS		娘を亡くした父親	都江堰	男	娘のクラスでは38人も死んだ。壊れたのは地震のせいだからと言って、どうして3階建てなのに鉄筋が入ってないのか。(聖火をお祝いする気になりますかとの質問に) そんな気分になれるか。家にテレビはあるけど見る気にもなれないよ。
805	TBS	劉露さん (14)		都江堰郊外の村	女	自力で脱出したの(地震直後の映像)。(2ヶ月半ぶりに再会し)(足をさし)中に鉄の板が入ってるの。(歩けるようにはなるんですか?) うん。(オリンピックは家でテレビで見るの?) うん, NBA。(被災した中学校の前で)前はあの場所に校舎があった。私の同級生たちはみんな若いのに、人生はこれからだったのに命を失いました。それがとてもつらくて悲しいのです。
805	TBS		劉露さんの母親	都江堰郊外の村	女	一番心配なのは子どものことです。娘の学校教育とか進学とか。家もこんな状態だし、ここで勉強してもうまくいくかどうか。
806	テレ朝		地震被災者	北川	女	聖火がここまで来てくれれば良かったけど残念ですね。
806	テレ朝		地震被災者	北川	男	(聖火が近くまで来ていますが?) 何とも思わないね(笑)。私たちは自分たちの生活で精一杯だよ。
806	テレ朝		仮設住宅の住民	映秀	女	(オリンピックにかかる費用を復興に使うって欲しいですか?) オリンピックは計画通り開催すべきよ。
806	テレ朝		仮設住宅の住民	映秀	男	国民のお金で開く大イベントだし、やめられないよ。
806	テレ朝		仮設住宅の住民	映秀	男	お金を払ってアンテナを買ったんだから、そりゃオリンピックはテレビで見たいよ。
806	テレ朝		通行止めの村から買い出しに来た女性	映秀	女	(村の復興は進みますか?) 仮設住宅は建てる途中だけど、お偉いさんたちは「会議がある」と村から帰ってしまった。(これはオリンピックのTシャツです)ね 救援物資で配られたんです。
806	テレ朝	劉毅陳君 (11)		臥龍	男	(何か用?) 建物が倒れたからレンガとか空き瓶とは売れるものを集めてるの。(お小遣いがどうするの?) 貯金する。(貯金してどうするの?) 将来の学費に使うの。
806	テレ朝	梁羨潤さん (50)		洋店村	女	(重い荷を背負いながら) 力があるのよ。家が崩れたからここにレンガを積んで新しく建てるの。(もうすぐオリンピックですが?) 今はまず家を建てないといけないけど、もちろんオリンピックは楽しみよ。
806	テレ朝	劉太林さん (41)		桃閑村	男	電気がないから、テレビでオリンピックを見るなんて無理だよ。夜もロウソクに頼るしかない。
806	テレ朝	易建業さん (38)		桃閑村	男	北京に行くこともできないし。テレビで見ることもできない。こんな状況ではね。
806	テレ朝		孤立した村から出てきた人	山岳部	男	まだ村への道路は開通していない。危険だし建物も全部倒れた。(もうすぐオリンピックだが?) 汶川に行ってみるよ。あそこなら電気もある。とりあえず勝って欲しいね。
806	テレ朝		孤立した村から出てきた人	山岳部	男	今は4,5家族しか残っていないよ。(政府からの配給は?) 穀物と薫製肉だけで他にはあまりない。
806	テレ朝	王銀平さん (35)	工事担当者	山岳部	男	がけ崩れの危険があり過酷な環境だ。それに標高も高く空気が薄い。

ンテナを買ったんだから、そりゃオリンピックはテレビで見たいよ」「オリンピックは計画通り開催すべきよ」などの声があがる。また、まだ道路すら開通していない孤立した村から来た人も、「汶川に行ってみよ。あそこなら電気もある。とりあえず勝って欲しいね」と北京五輪に期待し、楽しみにしている様子が伝わってくる。外国から来た取材陣に本音を明かさなかったのかもしれないが、生活が困難で、家の改築すらできないような時だからこそ、北京五輪を見て楽しい気分になりたいという思いも発言者からは感じられる。

(4)その他の中国人発言について

その他に地域別で中国人の発言を見てみると、北京と大地震があった四川省以外で比較的多くの発言が紹介された地域は、中国武装警察12人が死亡した事件が起こった新疆ウイグル自治地区(テレビ朝日系14人、TBS系2人)、銅の精錬工場の大気汚染の被害を受け、100人を超える農民が抗議を続けていた内モンゴル自治区の赤峰市(テレビ朝日系8人)、3月に僧侶が逮捕され暴動へと発展したチベット自治区(テレビ朝日系7人)などの地域からの発言が多く紹介されている。

また、北京に近い河北省からも延べ14人が発言しており、冷凍ギョーザ農薬混入事件を起こった天洋食品がある河北省石家荘市(TBS系6人、テレビ朝日系2人)、五輪に向けて北京に貯水するために水田をトウモロコシ畑にすることを余儀なくされた北京近郊の河北省の人たち(テレビ朝日系5人)などの声が紹介されている。すべての市民の発言内容を紹介することはできないが、テレビ報道全体のなかでは、格差社会が広がった中国、虐げられた貧しい人たちの姿など、中国社会の負の側面を映し出した表現が多くみられた。

社会的地位別に見ると、表3に示したように、一般市民の次に多かったのは、会社員・労働者の16.6%(57人)であった。このなかで多かったのは、冷凍ギョーザ農薬混入事件が起こった天洋食品の従業員(元従業員、警備員も含む、8人)、水不足より転作を強いられた河北省の農民(5人)、北京で物価の値上がりを証言する商店の従業員(3人)などであった。

また、社会的地位として3番目に多かったのは、公務員の10.5%(36人)であったが、このなかで最も多かったのは警察官(武装警官、官庁の警備員などを含む)の18人(テレビ朝日系14人、TBS系4人)であった。そのなかで、警戒態勢にある北京で警備にあたる警察官(10人)が最も多く登場した。北京五輪の交通規制で市内に入れない奇数ナンバーの運転手に「左にUターンをしてください」と指示する比較的穏やかな警察官もいたが、「おまえたちはここで何しているんだ。駅に入るのか。荷物を向こうに持っていきなさい」と出稼ぎ労働者に命じる武装警官(テレビ朝日系8月4日)、聖火ランナーを見ようと集まった市民に「手は中に入れろ・・・降りろ!降りなさい!」と命じる警察官などの姿も映された(テレビ朝日系8月6日)。北京市内の警官は5万人とも言われ、報道規制が厳しく、警戒態勢にある北京のイメージが視聴者には提供された。

その他にも、北京五輪開会式の直前の8月4日に12人が死亡する爆破事件が起こった新疆ウイグル自治区の警察官(4人)、7月下旬にバス爆破事件が起こった雲南省昆明市の警察官(3人)なども登場する。新疆ウイグル自治区では、報道陣が取材中に20人以上の警察官に囲まれ、「車を降りろ、早く車を降りろ・・・運転手もだ!運転手も降りろ!」と強制的に撮影や取材を中止させられた映像も流れた(テレビ朝日系8月12日など)。

(2)自由記述で代表された大学生の北京五輪の記憶

北京五輪の直後のWeb調査の2回目に回答した231人中(男62人、女142人、不明27人)、157人(68%、男51人、女105人、不明1人)が北京五輪や調査についてコメントを記述しており、そのうちの84人(全体の36%、男28人、女55人、不明1人)が中国・中国人イメージに関連した内容の具体的なコメントを述べていた。そのなかで、ポジティ

●表8 大学生への Web 調査でみられたおもな自由記述の内容①

中国に対するポジティブな記述
<ul style="list-style-type: none"> ・開会式に感動しました。 ・開会式、閉会式が美しくすばらしかった。 ・特に大きな問題も起こらず無事閉会してよかったと思う。 ・いい開会式の演出だったと思う。意外にテレビ中継の視聴率がとれていないことに驚いた。 ・中国がこの北京オリンピックに必死であったということが大きな印象です。国の威信をかけている様子が伝わってきました。あまりにも必死すぎる行為に滑稽さも感じましたが、愛国心、忠誠心の強さを感じました。 ・懸念されていたテロのように、何か大事件があるかと思っていましたが、何もなくてほっとしました。中国はこの成功を機に国際社会で認められる政治をしてくれるといいと思っています。 ・思ったよりは成功したオリンピックになったと思う。
中国に対するネガティブな記述
<ul style="list-style-type: none"> ・中国という開催国としての品格と中国国民の価値観の食い違いによる違和感があった。 ・中国政府による報道規制が印象に残った。 ・報道規制が気になりました。 ・開幕前の大気の問題、開会式の花火や口パクなどの報道が多すぎたように感じられた。餃子事件に続いて、メディアによる中国に対するマイナスなイメージの植えつけが進んだ。 ・中国人は、金メダルたくさんを取れば先進国だと勘違いしている。 ・中国に有利なひいきがひどかった。 ・中国はスタジアムや開会式・閉会式にたくさんのお金をかけているが、もう少し貧しい人たちに援助してもいいと思う。オリンピックのために家を追い出された人もいと報道されていた。国民全員が安心して暮らせる環境を提供してもいいのではないか。壁で隠すとか、報道を制限するなどまだまだ閉鎖的だと感じた。 ・中国の印象がこれまで以上に悪くなった。 ・中国のイメージが少し下がった。 ・一つのイベントとしてみると不満点がいっぱいあり、中国へのイメージは向上せず、むしろ悪化した。その後中国国内でどうなっていくのか気になるので、今後の中国の動きには関心がある。 ・日本人の中国への関心が高まるなどの日中関係がよくなることもなく終わってしまったのは、マスコミが日本人の活躍や他国の活躍選手ばかりを報道し中国に関する記事をあまり報道しなかったからではないかと思っています。 ・中国人が日本人選手に対するブーイングのやりすぎが気になった。 ・中国はもっと環境問題を改善すべきだったと思う。 ・中国の自国びいきな政治の実態を国際的に披露する形となったと感じる。 ・開会式の口パク問題については、歌った本人を使うべきだと思った。 ・中国国内での報道への規制がとても厳しく、中国はまだまだ閉鎖的な国なのだなと感じた。 ・北京五輪は中国のイメージダウンに大きくつながったと思う。one china という言葉に押しつぶされた人々の真実もあらわになったし、ますます世界からの評価は下がると思う。 ・開会式で口ばくだった女の子がとても印象的でした。 ・日本のメディアやテレビ番組の中で、「中国人の日本人のブーイングに対するブーイングがひどい」ということをよく耳にしたのが印象的だった。 ・開会式が長すぎた。見ていて飽きた。 ・開会式の演出はCGとか口パク以前にセンスがない。空中歩行はかっこ悪すぎ。国の入場順も中国人以外理解できない。 ・今まで以上に何でも中国が中心のオリンピックだった。 ・中国人の中国最良的な応援に腹が立ちました。 ・開会式の演出には残念。「口パク少女」がかわいそうでならない。 ・自分の国を良く見せようとしすぎだと思った。



ブなイメージのみを記述した人は10人(男4人,女6人)と少なかった。一方で,39人(男10人,女28人,不明1人)がネガティブなイメージのみを記述していたが,その他の34人(男14人,女20人)は,中国・中国人イメージのポジティブな側面とネガティブな側面の両方を記述していた。

表8に示すように,ポジティブな記述で多くみられたのは,開会式や閉会式の印象を書いたものである。「開会式に感動しました」「中国がこの北京オリンピックに必死であったということが大きな印象です。国の威信をかけている様子が伝わってきました。あまりにも必死すぎる行為に滑稽さも感じましたが,愛国心,忠誠心の強さを感じました」などの例に代表されるだろう。

一方で,ネガティブな記述で多くみられたのは,中国の報道規制,開会式での口パクや花火のCGなどの演出,中国びいきな応援などをあげる声が多かった。「中国政府による

●表9 大学生への Web 調査でみられたおもな自由記述の内容②

中国に対するポジティブでネガティブな記述

- ・開会式の印象が強烈でまさに一条乱れぬ動きとはこのようなことを言うのだと思い、この動きを教え込む中国に脅威を感じた。
- ・全体的に盛り上がっていたと思うが、逆に開会式などをやりすぎていたり、見せ掛けだけにこだわりすぎている印象を強くもった。結果的に中国人個人というよりも、中国政府に対して否定的なイメージが強まった気がする。
- ・中国が国家の威信をかけて派手な演出をしたが、最後の閉会式ではロンドンの洗練されたかっこよさを目を奪われた。
- ・五輪開催中の海外メディアの規制は行わないとしていた中国政府がその約束を守らなかったとの報道には、少し中国に対して失望した。それと開会式は統一され、すごい迫力だとは思ったが、中国に対する集団主義的イメージが先行しやや不気味にも思えた。
- ・CG問題、口パク問題など、中国に対して悪意のある報道が目立ったので「やっぱり」という感じでした。家族との会話でも「やっぱり中国は・・・」という一方的な見方が当たり前になってしまったことが残念です。
- ・中国で開催したオリンピックにしては思ったほどの問題（観客の暴動など）もなく、すんなり進行したと思う。ただ、CGの足跡や口パクは本当に中国らしいと思う。
- ・中国のイメージ向上を狙っての中国式的アピールが、外国少なくとも日本の価値観と違う点があったと思う。2年後に開かれる万博のとき中国がどのように変わっているか。
- ・大気汚染など当初の予想に比べて無事終わったように思える。ただ、柔道やレスリングでのおかしな判定や、日本選手へのプーイングなど、悪い意味で印象的な点多かった。
- ・大きな混乱もなく無事に終わってよかったと思うが、中国らしさが出てしまったところがやっぱりなあと思っています。本当に何事もなかったのかまだ信用できません。
- ・中国の人たちが団結して自国を応援している光景がすごいと思ったと同時に、なんとなく腹が立ってしまった。
- ・中国は開会式を単にひとつのエンターテインメントとして捉えていただけなのではないか。ハリウッド映画では、スタントもミュージカルの吹き替えもCGも当然のことである。ただ、事実と思っていたので、何だかだまされたような気がしたのかもしれない。
- ・中国で開かれるということで、マスコミは悪い面を大きく取り上げたりしていたけど、少なからずどの国でも何かしら問題は存在するだろう。
- ・開会式の口パクなどは、個人的には見えても特に不快にもならなかった。日本のメディアがそのことに関して、殊更取り上げることのほうがよほど気になった。
- ・どうでもいいことを騒ぎすぎたと思う。口パクとか、日本でも歌手がやっているのだから。
- ・中国のイメージはいい意味でも悪い意味でもかなり変わったような気がする。
- ・少数民族の服装をした子どもたちが漢民族だったことについて、あれは演劇のようなものだから別にいいじゃないかと思って2ちゃんのスレを眺めていたら、そう考えた人はやはり多かったらしい。
- ・華やかなオリンピックの裏側では、北京市民がオリンピック期間中だけ他の町に移住している事実があることなどが印象に残りました。
- ・中国は頑張ったという印象がある。中国人の観戦について、テニスの試合でも大声で応援するなど文化的な国際的水準の低さを感じた。
- ・中国の国内向けの情報の偏りに、国の政治的な情報操作など閉鎖的なものを感じた。
- ・ここまで中国の社会問題について考えさせられるオリンピックは初めてだった。なので新聞や雑誌を読むのは面白かった。オリンピックの意味について自分で結構考えることが多かった。
- ・中国という国家の華々しい表の顔と、実際に壁一枚隔てた向こう側の貧しい人々の暮らす裏の顔が浮き彫りになった大会であったと思います。
- ・中国の愛国心が目立った大会だと思いました。テレビ番組の中でリポーターの人が「陸上競技場では中国人選手が走る時になると応援の音が大きすぎてスタートの音が聞こえない選手もいる」と言っていたのが印象的でした。
- ・開会式を見たとき、非常に国の威信をかけているように感じた。ただ、デモを全て却下していたり、やらせがあったり、どこか納得いかない部分もあった。
- ・日本の中国を批判するような報道が目立ち、揚げ足をとるようで少し残念に思った。しかし日本も初めてのオリンピックで活性化したように、中国に今後もっと世界的にも認められ、対等な関係を築いてほしい。また、北京市内の空気が清浄されたと聞いてすごいと思った。



報道規制が印象に残った」「開会式の口パク問題については、歌った本人を使うべきだと思った」「中国人が日本人選手に対するプーイングのやりすぎが気になった」「中国の印象がこれまで以上に悪くなった」などの記述がみられた。

全体としては、ネガティブな印象のみの記述のほうが多かったものの、表9に示すように、中国のポジティブな面とネガティブな面の両方の内容の記述も多くみられた。たとえば、「開会式の印象が強烈で、まさに一条乱れぬ動きとはこのようなことを言うのだと思い、この動きを教え込む中国に脅威を感じた」「全体的に盛り上がっていたと思うが、逆に開

会式などをやりすぎていたり、見せ掛けだけにこだわりすぎている印象を強くもった」「開会式は統一され、すごい迫力だとは思ったが、中国に対する集団主義的イメージが先行しやや不気味にも思えた」「中国が国家の威信をかけて派手な演出をしたが、最後の閉会式ではロンドンの洗練されたかっこよさに目を奪われた」などのように、人海戦術的な開会式の印象は強く残っていても、その印象が必ずしも中国へのポジティブなイメージとは結びついておらず、「脅威」「不気味」と感じられたり、「見せかけへのこだわり」「派手な演出」「集団主義的」だと受け止められた過程が読み取れる。

また、開会式での花火のCG、口パク、漢民族の子どもが他民族の衣装を着ていた点については、「中国は開会式を単にひとつのエンターテインメントとして捉えていただけなのではないか。ハリウッド映画では、スタントもミュージカルの吹き替えもCGも当然のことである」「どうでもいいことを騒ぎすぎたと思う。口パクとか、日本でも歌手がやっているのだから」「少数民族の服装をした子供たちが漢民族だったことについて、あれは演劇のようなものだから別にいいじゃないかと思って2ちゃんのスレを眺めていたら、そう考えた人はやはり多かったらしい」などのコメントに代表されるように、日本をはじめとする外国メディアが大げさに騒ぎすぎたと評価する声も多く聞かれた。

また、「中国は頑張ったという印象がある。中国人の観戦について、テニスの試合でも大声で応援するなど文化的な国際的水準の低さを感じた」「中国のイメージ向上を狙っての中国式のアピールが、外国少なくとも日本の価値観と違う点があったと思う」「開会式を見たとき、非常に国の威信をかけているように感じた。ただ、デモを全て却下していたり、やらせがあったり、どこか納得いかない部分もあった」「結果的に中国人個人というよりも、中国政府に対して否定的なイメージが強まった気がする」などのように、中国人（あるいは中国政府）と日本人との価値観の違いが浮き彫りになり、中国人や中国政府の努力や必死さは認めながらも、そのやり方に、日本人の価値観から見ると納得がいかず、強い違和感を感じている様子が伝わってくる。

その他には、「中国という国家の華々しい表の顔と、実際に壁一枚隔てた向こう側の貧しい人々の暮らす裏の顔が浮き彫りになった大会であったと思います」「ここまで中国の社会問題について考えさせられるオリンピックは初めてだったので、新聞や雑誌を読むのは面白かった。オリンピックの意味について自分で結構考えることが多かった」「中国のイメージはいい意味でも悪い意味でもかなり変わったような気がする」などの記述も見られ、世界中に注目された北京五輪は、日本人大学生の中国の記憶にも大きな変化をもたらしたことが感じられる。

▶ 4 考 察

本研究は、TBS系、テレビ朝日系の夜のニュース番組の分析を元にしたものであり、北京五輪報道の他の重要な担い手であったNHKニュース、テレビによる試合中継、新聞や雑誌における報道、インターネット上のニュースサイトや掲示板での議論などの分析は行っていない。したがって、本研究の結果を日本のメディア報道全体の傾向だと一般化できない点をまず明記したい。また、大学生を対象に行ったWeb調査における自由記述の分析においても、若い世代の北京五輪の記憶の一部を反映しているにすぎないし、Web調査の質問紙で意図された方向性を感じ取り、研究者の意向に沿った記述を行った可能性もあるかもしれない。しかし、テレビ報道の単なる印象や、質問紙調査の結果だけでは読み取れない「理由」を示した部分もあり、これらの分析の結果を踏まえて、考察を加えたい。

まず、テレビ報道の分析、大学生の自由記述から読み取れることは、中国人が獲得したメダル数などは言及されても、中国選手や中国チームに歩み寄っての取材や報道はきわめ

て少なかった。その結果として、51枚の金メダルを獲得した中国チームや中国選手の活躍は、大学生の印象にはあまり残らなかった可能性がある。また、山内（2009）が指摘するように、近年の日本人金メダリストの中継が、「国家」よりも「個人」や「家族」に焦点を当てるような方向でシフトしているとするならば、中国人選手にインタビューが行われ、個人的な心情、家族とのドラマなどが語られないことには、あまり印象に残らないはずである。この点では、上瀬ほか（2010）で報告された有名外国人の分析でも、家族とのドラマなど個人的な心情などが報じられた米国のフェルプス選手の名前は、五輪直後には12人の大学生があげたが、中国人選手の名前をあげる大学生はほとんどいなかったという点でも示されている。

したがって、視聴者の北京五輪のポジティブなイメージは、中国政府が威信をかけて行った北京五輪の「オモテ」舞台である開会式や閉会式などの印象にとどまってしまったのかもしれない。しかも、そのイメージでさえ、「脅威」「不気味」「集団主義的」などの負のイメージと結びついた場合も多かった。この点では、黄・小林（2009）が、若い世代では、ポジティブともネガティブとも受け取ることができる中国の「すごさ」を感じた人が多いとの見方と一致する。

その一方で、北京五輪の「ウラ」側に関する報道については、比較的熱心に行われた。なかでもテレビ朝日系では、7、8月の2か月間で、延べ238人の中国人の発言を引用し、北京五輪で行われた報道規制、北京市内で治安対策のために行われた強制撤去、北京の水確保のために稲作を断念させられた農民、地方政治の腐敗と陳情など、貧富の格差が広がり、矛盾を抱えた中国社会を紹介し、中国各地から様々な側面の報道を展開した。チベットでは中国政府からの監視役を連れだつての取材ではあったが、他の地域では多面的な取材が展開できたゆえに、中国社会が抱える矛盾を伝え、視聴者の中国に対するネガティブな印象をより強固にしてしまった可能性がある。

ただし、中国が抱える民族問題、社会問題、日本とは異なる価値観でとらえなければならないという点を視聴者に気づかせたという側面もあったことが、大学生の自由記述からは読み取れた。この点については、北京五輪の前後で中国や中国人イメージに変化をもたらしたことは事実であるが、より複雑な認知が進み、若い世代の大学生が中国についてあらためて考え始める機会ともなったようだ。そして今後、若い世代が北京五輪とともに思い返す中国の記憶は、「やっぱり中国は・・・」という言葉に表象されるようなネガティブなイメージを積み重ねていくのか、それとも、さらに発展を続ける中国の新しい記憶へと次々に塗り替えられ、過去の北京五輪時の記憶と対照的に語られることになるのかはわからない。しかし、若い世代にとって北京五輪のあった2008年は中国についての記憶の1ページとなり、歴史的変遷のなかで、いずれかの方向に変化していくように思われる。

そして、最後に「報道ステーション」（8月22日）で寺島実郎（財日本総合研究所会長）が語っていた発言を紹介したい。

「中国という統制国家のあやしげさ、危険さを感じるし、何とも未熟な段階にあるんだなということを感じるんですが、いつも自分自身に言っているのは、今、中国の一人あたりGDPが2,000ドルを超したというぐらいのところなんです、これが日本の40年前、東京オリンピックの1964年の2年後の66年に1,000ドルを超して、そこから一気に日本も伸びるんですけど、東京オリンピックと万博の間ぐらいのイメージでね、中国の経済社会というのは成り立っていて、社会制度とか、様々なきしみを抱えて生きています。

我々見るとイライラしたりするんだけど、やはりこの隣の大国を国際社会のルールとか、価値とかを共有してくれる国に、変わってってもらわなくちゃ困る、その粘り強い意志というのを持って、じっと見つめていかなくちゃいけないんじゃないかと、ずっと僕は思っているんですけどね。」

チベット仏教だけでなく、イスラム教徒の多い新疆ウイグル自治区、政府に公認されていないキリスト教の地下教会など、中国という大国は世界の縮図でもあるかもような多様

性を兼ね備えている。そして、今後、様々な社会問題や価値観を内包した中国を日本人がどのように見ていくか、社会的な矛盾を抱えながら、全速力で突き進んでいるように見える大家族の隣人である中国と、日本人がどのように付き合っていくべきか、その姿勢が問われているように思われた。

●引用文献

- 荒川信治 (2008) 北京オリンピックはどう見られたか—先進的視聴者のメディア接触状況— 放送研究と調査, 58 (11), 16-31.
- 黄允一・小林直美 (2009) テレビニュースにおける北京オリンピック報道と視聴者の対中国意識の変化 日本マス・コミュニケーション学会 2009 年度秋季研究会 (慶應義塾大学) 配付資料
- 福島香織 (2008) チベットの悲鳴を聞け!—北京五輪どころじゃない 正論, 434, 212-217.
- 橋元良明・小笠原盛浩・江暉・河井大介 (2009) 北京五輪に関する東大生、清華大生のメディア接触とその影響 東京大学大学院情報学環情報学研究, 調査研究編, 25, 29-72.
- 上瀬由美子 (2004) ワールドカップによる外国イメージの変容—日韓共催によって韓国イメージはどう変わったか— 萩原滋・国広陽子 (編) テレビと外国イメージ—メディア・ステレオタイプ研究 勁草書房 pp.243-259.
- 上瀬由美子 (2007) オリンピックにおける外国関連情報—テレビニュースに現れるライバル・フレーム 萩原滋 (編) テレビニュースの世界像—外国関連情報が構築するリアリティ 勁草書房 pp.271-290.
- 上瀬由美子・萩原滋・李光鎬 (2010) 北京オリンピック視聴と中国・中国人イメージの変化—大学生へのパネル調査分析から— メディア・コミュニケーション (慶應義塾大学メディアコミュニケーション研究所紀要), 60, 67-88.
- 向田久美子・坂元章・村田光二・高木栄作 (2001) アトランタ・オリンピックと外国イメージの変化 社会心理学研究, 16, 159-169.
- 櫻井よいこ・田久保忠衛・劉工永・金燦榮 (2008) 7 時間闘論「異形の大国」中国に問う北京五輪 日中大論争—チベット弾圧, 人権侵害, 不気味な軍事力拡大—この国に五輪開催資格はあるのか? 文藝春秋, 86 (10), 94-82.
- 山田賢一 (2008) “激動の一年”における中国のメディア政策—重大ニュースはどう伝えられたか 放送研究と調査, 58 (12), 52-63.
- 山下玲子・佐久間勲・村田光二・藤島喜嗣・大江朋子・李岩梅・金ジュン (2009) 北京オリンピック大会と国民イメージ(3)—日本人大学生におけるメディア接触の影響— 日本社会心理学会第 50 回大会・日本グループ・ダイナミックス学会第 56 回大会合同大会発表論文集 (大阪大学), 442-443.
- 山内亨 (2009) 北京オリンピック テレビ実況は金メダル獲得をどう伝えたか 仙台大学紀要, 40 (2), 185-194.

(渋谷明子 慶應義塾大学メディア・コミュニケーション研究所研究員)